

平成29年度 狛江市立学校第三者評価委員会 報告書 概要版

1 狛江市立学校第三者評価委員会委員

【委員】

委員長	元東京都医師会長	鈴木 聡男
委員	調布狛江地区更生保護女性会会長	愛甲 悦子
委員	八王子市教育委員会教育委員	大橋 明
委員	帝京大学大学院 教授	坂本 和良

【事務局】

狛江市教育委員会教育長	有馬 守一
狛江市教育委員会教育部理事兼指導室長	柏原 聖子
狛江市教育委員会教育部指導室統括指導主事	小坂 力

2 第三者評価実施概要

- ◆ 平成24年度までは全小中学校を毎年評価対象校としていたが、平成25年度から全校を中学校区によって2グループに分け、5校ずつを隔年で評価することにより、短期的な評価に加え、2年間のスパンで中期的な評価を実施することとした。
- ◆ 評価を焦点化するために、「学力向上の視点」「特色ある教育活動の視点」からそれぞれ評価の観点を学校ごとに決定し、その観点にそって重点的に評価を進めた。
- ◆ 評価委員による学校訪問を年2回実施し、1回目に評価の観点における各校の課題の確認、2回目にその課題に対する取組状況や改善内容を確認することで、より学校の実態に沿った評価を推進した。

3 平成29年度評価対象校及び評価の観点

学校名	評価の観点① 学力向上の視点	評価の観点② 特色ある教育活動の視点
狛江第一小学校	主体的な学び、対話的な学びとして（深める・広げる・伝える）授業の展開	「地域・保護者との協働」郷土学習・地域学習を支える地域人材の活用
狛江第五小学校	「特別の教科 道徳」を軸にした授業力の向上	地域人材を活用した地域とともに歩む学校
緑野小学校	学校図書館の活用を通じた思考力・表現力の育成	地域との連携を通じた障がい者理解教育の推進—オリパラ・アワード校—
狛江第一中学校	自尊感情を高めることによって学力向上を図る	生徒会活動を核とした学校行事の充実で自尊感情を高める
狛江第四中学校	コミュニケーションを活かして互いに意欲を高め合う活動	四大大行事による学校生活への意欲の高まり

4 狛江市立学校第三者評価委員会の経過

- (1) 事務局によるヒアリングと評価の観点の決定
平成29年6月 会場：各学校
- (2) 第1回学校訪問
平成29年6月26日（月）～平成29年7月7日（金） 会場：各学校
- (3) 第2回学校訪問
平成30年1月17日（水）～平成30年2月22日（木） 会場：各学校
- (4) 第3回まとめ
平成30年3月6日（火） 会場：市役所

5 総括

(1) 学校評価を生かした学校経営

- 紀要等の成果物を出すことが成果ではなく、教員や児童・生徒の変容には数値で表せない部分がある。教員や児童・生徒が実際に変容していくことが成果と考える。数値に表せない部分を価値付けた学校経営が必要である。
- 校長が学校経営方針を適切に定め、リーダーシップを発揮している。教職員は学校経営方針をよく理解し教育活動に当たっている。
- 学校評価において、児童・生徒、保護者、地域対象の評価項目が同一では、評価項目の認識の違いにより評価結果が学校経営に生かされない場合がある。より評価の妥当性・信頼性を高めるためには、学校は多様な方法で保護者や地域の方々に学校の取組について理解を図った上で、評価を求める必要がある。
- 学校評価を管理職だけでなく、教職員で情報共有し、学校全体で分析する必要がある。

(2) 学力向上

- 学力向上について、各学校は目的をもって評価項目を定め実施しているため、より多くの授業で評価を生かした改善を図ってほしい。
- 校長が、教員及び児童・生徒の実態に応じて、学力向上に関する評価項目を定め、それに基づいた組織運営をすることが大切である。
- 各教科等の指導方法に触れた校内研修の在り方を充実させていくことが、有効と考える。
- 少人数習熟度別の授業で、教員により指導内容が異なる場面があるが、統一すべきことと習熟度に合わせて指導すべきことを整理して指導に当たってほしい。

(3) 人材育成

- 校長は所属職員をよく観察しており、自校の人材育成の課題をよく理解している。
- 校長室に「学年経営マップ」を掲示している学校があるが、それがPDCAサイクルに生かされ、人材育成にも繋がっている。
- 校内研修におけるテーマを若手教員を対象に定め、基本的な事項を学べる機会をより多く作ることが大切と考える。例えば、学級経営の基本、指導案上にはない突発的な事項についての児童・生徒への対応の仕方、保護者対応の仕方などを実施していくことなど。
- 板書の仕方、日本語・英語の書き順など学校の組織力を生かし、若手教員への指導を徹底していくことが大切と考える。

(4) 教育委員会の支援

- 特別支援教育など個に応じた指導の更なる充実
- hyper-QU活用による学級経営の取組 など

6 各学校における主な評価

【狛江第一小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校の経営上の課題を校長が的確に把握している。また、改善に向けての方針を明確に立てている。 ◆ 授業態度が低学年でも落ち着いていてよい。5年生の社会では児童が自分の意見をよく出していた。しかし、それらを活用したり、広げたりする工夫がほしい。 ◆ 狛江で一番歴史のある学校で学校を支える地域の人材は多くいると思う。学校との輪をもった連携で教員、児童も刺激を受け活発になることも期待する。
【狛江第五小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業全体が落ち着いて進められている。児童の姿勢も態度もよい。「道徳」の授業では、学習のきまりが徹底され、教え方も工夫されている。 ◆ 「生活指導」は領域だけではなく「自己指導力を育成する」ことを目指す機能であることを全教職員で再確認し、各教科、領域の指導の在り方を検討することが大切と考える。 ◆ 新学習指導要領の全面实施に向け、カリキュラム・マネジメントの視点から授業等に計画的に地域人材の活用を図っていく必要がある。
【緑野小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 校長が地域や児童の実態等十分理解し経営方針を立てているので、取組内容が具体的で分かりやすい。若手教員の割合が多いため、活気を大切にし、互いに学び合える組織を大事にしてほしい。 ◆ 国語（読書活動）ではブックトークにより関心をもたせ、その後図鑑で調べる活動の調べ方の確認も行われてた。 ◆ 地域社会との密接な交流-高齢者、障がい者への支援活動-に、より多くの力を注いでいる。この活動を、将来にわたって自分たちの生活や社会にどう活かせるかを教えてほしい。
【狛江第一中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自尊感情、自己肯定感を中心に生徒だけでなく教員の意識を変えるところまで引っ張っていく（校長の）リーダーシップの強さを感じた。 ◆ 体育祭等学校行事で自尊感情を高める取組を進めており、成果が出ていることが分かった。 ◆ 授業が楽しい、内容が分かると回答している生徒が多くなっていることから、授業改善が進んでいることが分かる。
【狛江第四中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校の状況についてよく分析されている。経営の方針が明確である。家庭学習の習慣化については、生徒が必要感のあるものにするなど工夫が必要ではないか。 ◆ 授業で話し合い活動を取り入れ、90%を超える生徒が意識している。授業中生徒が自然に話し合う雰囲気が出てきているのがよい。欲を言えば内容を深める話し合い活動の実際を見てみたい。 ◆ 行事を通して生徒の主体性を高め、将来の希望をもたせるようにしているとアンケート等からも分かる。